

研究のまとめ

1 教科領域研究テーマ

生活や社会の中の美術や美術文化と主体的に関わろうとする生徒の育成
 ー生徒の見方や感じ方を広げ、メタ認知力の向上を促す学習展開と評価の工夫ー

2 研究の実際と成果（○）と課題（●）

(1) デジタルポートフォリオを活用した振り返りの工夫

昨年度に引き続き、全学年でデジタルポートフォリオを作成した。また、デジタルポートフォリオの記述や生徒の様子に応じて、制作や振り返りの観点をキーワードとして具体的に提示したり、生徒相互で制作過程の作品の評価や助言をする場面を設定したりするなどして、生徒のメタ認知力の向上を図った。

○デジタルポートフォリオ



1年絵文字のデザイン



1年「1年間の学習の成果をまとめよう」作品

○単元のはじめや、毎回の授業でデジタルポートフォリオを用いたことで、生徒は学習の流れや自己の成果と課題を確認し、それぞれの目標達成への見通しを持ちながら取り組むことができていた。

●限られた授業時間の中で制作、鑑賞、振り返り、道具の片付けなどを行うため、時間内に振り返りが行えなかったことや、生徒の学びを十分に深められなかったことがあった。振り返りを含めた授業展開やポートフォリオの内容を改善させたい。

○生徒の考えや目標、自己評価などをデジタル上で共有することができ、それらを助言や指導、

評価に生かしたり、機会を捉えて作品鑑賞をする場面を設定したりすることができた。生徒たちの状況に応じて、画家の絵画作品や身の回りのデザイン、作品例・制作過程の様子などを取り上げて、新たな視点で考えることを促した。これらの作品鑑賞や、振り返りを生かした目標設定の調整を重ねていくことで、生徒たちの作品を見るポイントが次第に明確になり、多様な視点で捉えようとする様子や、より客観的に自己の課題を考え、改善しようとする様子が見られた。

- 復習や学習のまとめの際にも、生徒はデジタル上でほぼ全ての過去の取組を確認することができたため、より自己の成長と課題を自覚し、高い目標に向けて意欲を高めることができた。

(2) 鑑賞活動の充実

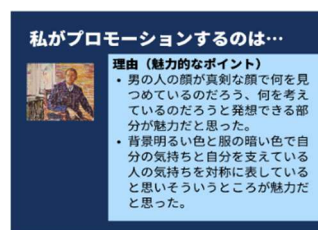
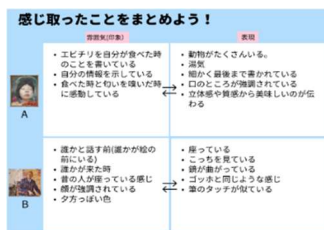
表現と鑑賞がつながり合い、相乗的な効果を引き出せるようにするために、鑑賞の題材選定や活動を行うタイミングなどを考慮して授業を行った。また、生徒が見方や考え方を広げ、自己の課題を見つめ直し、考えを練り直すことができるよう、美術作品の鑑賞と制作途中作品の相互鑑賞を関連させるなど指導を工夫した。

○制作途中作品の鑑賞



生徒相互で評価や助言をする様子

○自画像作品の鑑賞（2年）

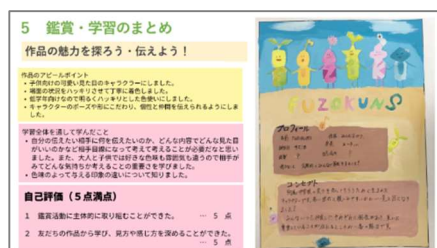


鑑賞の資料・ワークシート



制作途中で実施した鑑賞の資料

○完成作品の相互鑑賞（ワークシート・発表の様子）



1年 キャラクターデザイン



- 単元のはじめや制作過程で鑑賞活動を行ったことで、生徒が作品のテーマを探究するための手立てを具体的にイメージし、どのようにアプローチしていくかを考えることができた。生徒は鑑賞から考えたことを積極的に制作に取り入れ、テーマに迫る表現になるよう試行錯誤することができていた。
- 鑑賞活動の班やペアによって、話合いの質に差が出てしまい、個別の支援が必要な場面があった。全体での指導や話合いの設定に工夫を加えることで、話合いの質をより一層高めることができるのではないかな。
- できるだけ多様な視点から捉えられる作品や、生徒の発見を促すような作品を選定したが、実際に鑑賞活動を行ってみると、意見に偏りが出たり、予想よりも意見の深まりが見られなかったりするものもあった。よりよい鑑賞の題材や授業展開を考えたい。
- 相互鑑賞を単元の中で複数回設定し、作品の変化を捉えさせながら助言や評価をさせたことで、生徒が自己の取り組み方に自信を持ったり、意見や他の生徒の取組から学び、制作方法の見直しや調整をしたりする様子が見られた。
- 相互鑑賞は、どの生徒にとっても客観的に自己を見つめるきっかけ作りになっていた。しかし、なかなか自己の課題に気付くことができない生徒もいた。そのような生徒の「メタ認知力」を高めるための新たな手立てを考えたい。

3 次年度に向けて

今年度の研究を通して、学びの過程を生徒と教師で共有したことで、生徒一人一人の成長を見取り、表現したい思いを大切にしながら授業を進めることができた。特に自画像の単元では、生徒それぞれの作品テーマに合う表現を考えさせ、表現方法を自由に選択させながら時間をかけて探究する活動を進めていった。PDCAを積み重ねる中で、生徒が自己のテーマに迫ろうと試行錯誤する様子から、メタ認知力の向上や自己調整力の向上を感じ取ることができた。しかし、今年度は、振り返りを含めた授業展開やデジタルポートフォリオの内容、鑑賞活動や班活動などに多くの課題が見つかった。来年度もこれらの改善を図りながら、生徒のエージェンシーの育成に向けて引き続き研修に努めたい。